

とまこちゃん通信 VOL.6

2016年10月

とまと歯科クリニック



☆今回のテーマ☆ 「入れ歯になる日がやってくる!？」

先日、40代の方からご質問を頂きました。

『今の所毎年のメンテナンスを受けており、時々歯がしみる程度の不快感がある程度ですが、いつか入れ歯をする時期が来るのでは、とドキドキしています。～中略～どのくらいで入れ歯をすることになるのでしょうか?』

「入れ歯」とは、主に2本以上連続して歯を失っている部分に装着する、取り外し式の義歯の事をさします。突然2本の歯が同時に悪くなるという事はほとんどありません。最も多いのは、奥から2番目のいわゆる「六歳臼歯」を失っているために、その前後の歯を削って「ブリッジ」という治療を行っているケースです。



1本だけ歯を失った時、ほとんどの方はこの「ブリッジ」での修復を希望されます。取り外しの煩わしさがなく、保険治療です。しかしその際、両隣の歯を被せ物にする必要があるので、その被せ物の内部や、周りの歯ぐきが悪くなり、抜かないといけなくなった時、実質的には一度に2本の歯を失ったような状態になるのです。そしてこのタイミングで「入れ歯」を作る事が必要となります。

なので、1本歯を失うと、将来的に「入れ歯」になるなど、その後のお口の状態に大きく影響するのです。

ご質問を下された方は、これまで歯の治療をそれなりに受けている、との事ですが、大臼歯がすでに神経を取る治療を受けていて、銀歯を被せているのなら、今後「入れ歯」になるリスクは高いと言えます。具体的には15年～20年後くらいでしょうか。まだ神経が生きている歯であるなら、できるだけむし歯の再発と歯周病の進行を防ぐ事が大切です。当院では、メンテナンスは理想的には年2～3回行うことをお勧めしています。

院長 廣瀬 佐都子



※これからも「おしえて!とまこちゃん」コーナーへのご質問をお待ちしています!

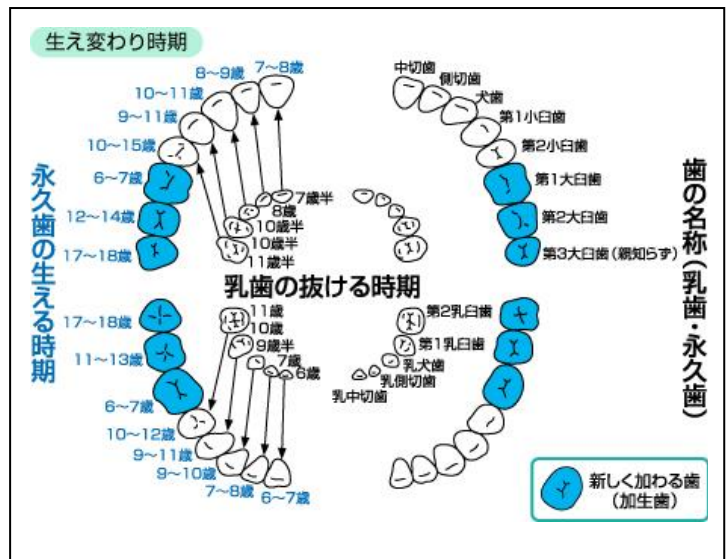
★おしえて!とまこちゃん★

質問： どうして「大人の歯」になるの？

答え：赤ちゃんの頭と大人の頭では、すいぶん大きさが違います。頭が大きくなれば、当然あごも大きくなります。歯は、すき間なくあごの骨に並んでついていなければなりません。ところが歯は、生えた後に大きく成長することはほとんど無いので、最初からあごのサイズにぴったりの歯が生えるようになっていきます。

あごが小さい子供の時は小さい

歯が生えていて、あごが成長して大きくなると、そのあごにぴったりの、大きな歯に生えかわるのです。



※たくさん質問、ありがとうございます♪ 「おしえて!とまこちゃん」コーナーでは、歯やお口の中に関する質問を募集中です。順番にお答えするのでお待ちください♪
☆待合室にある質問 BOX に入れてね!! ☆

今月の **ぷちとまと** 🍅

～じぶんでたべると、おいしいね!!～



じゅんや 惇也くん (1歳1か月)

手つかみで
「あーん、ぱくっ。」
大きなお口で、がんばっています☆

フォークに食べ物をさしてあげると、上手にお口まで持っていきます♪



かんな 葉奈ちゃん (1歳2か月)



とまと歯科クリニックの理念： 地域の皆様のお口の健康を守り育てることに全力をつくし、より快適で幸せな人生のお手伝いをします。